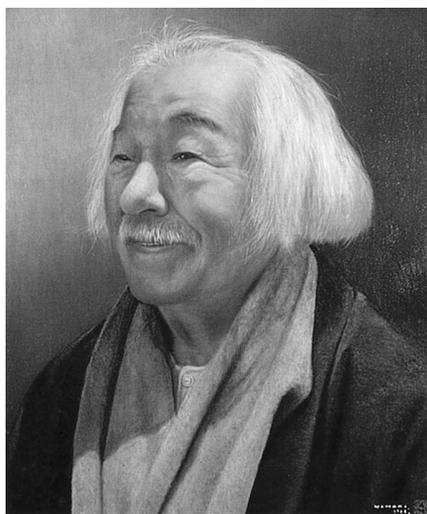


第38回蘇峰会静岡県書道展 開催要項

本書道展は公益財団法人蘇峰会が徳富蘇峰先生の偉業を顕彰し、あわせて青少年の健全育成を図り、また書道の発展に寄与することを目的に毎年開催しているものです。徳富蘇峰先生は江戸末期の文久3年（1863）に熊本で生まれ、昭和32年（1957）に95歳でその生涯を終えるまで、明治・大正・昭和の3代にわたって先覚ジャーナリストとして活躍されました。

その足跡をたどりますと、明治20年に「国民之友」を創刊、同23年には国民新聞社を創立、社長兼主筆として健筆を振られました。昭和18年には幾多の功績によって文化勲章を授与されました。先生の全百巻からなる『近世日本国民史』は不朽の名著です。

先生は静岡県とも深い関わりを持たれており、熱海の晩晴草堂にて天寿を全うされました。その薫陶を受けた方々も多く、その人たちを中心に蘇峰会が結成され今日に至っております。



徳富蘇峰翁

- 主 催／公益財団法人蘇峰会・静岡新聞社・静岡放送
駿府博物館
- 後 援／静岡県・静岡県教育委員会・静岡市・静岡市教育委員会
静岡県書道連盟
- 展覧会場／静岡市駿河区登呂3-1-1 駿府博物館
- 会 期／平成27年3月17日（火）～3月29日（日）
〈前期：3/17（火）～22（日） 後期：3/24（火）～29（日）〉

〈応募要項〉

(1) 応募資格

園児・小学生・中学生・高校生・大学生・一般で、県内に在住する方

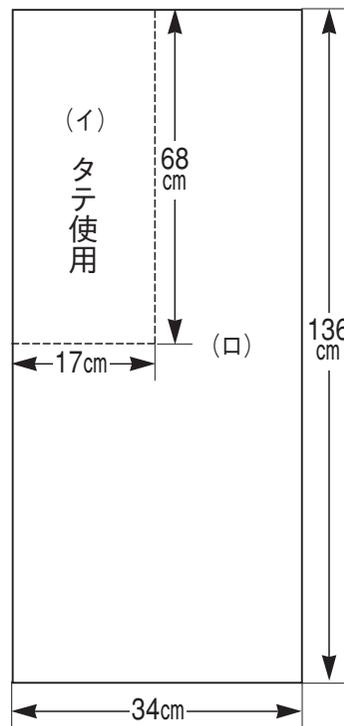
(2) 応募規定

(イ) 園児・小・中・高校生の部

- ①毛筆で一人1点、大きさは半切画仙紙の4分の1
(縦68cm×横17cm)
- ②語句は指定語句に限ります
- ③作品に学年・氏名を記入して下さい
(園児および小1、2年生までは名前のみでも可)
- ④出品作品は原則として返却いたしません

(ロ) 大学生・一般の部

- ①毛筆で一人1点、大きさは半切画仙紙(縦136cm×横34cm)
- ②表装・仮表装・裏打ちはしないで下さい
- ③語句は指定語句の中から、自由に選んで下さい
- ④作品の返却希望者は、出品票に『返却希望』と明記して下さい
(“着払い”で返送します)



◆共通事項 (園児～一般)

- ①代表者は必ず出品票(別紙)を作成し、作品とともに提出して下さい。個人で出品される場合も同様とします。出品票は蘇峰会ホームページ(<http://www.sohoukai.com>)からダウンロードできます。
- ②作品裏側に氏名(フリガナ)を楷書で必ず明記して下さい(鉛筆書きのこと)
- ③出品作品の搬入は郵送または宅配便で、行って下さい(持参はご遠慮下さい)

(ハ) 上記規定外の作品は失格とします

- (ニ) 出品料 ※園児・小・中・高校生……………200円
※大学生・一般……………500円

出品料は作品に添えて郵便小為替、または作品とは別に現金書留で書道展事務局に納入して下さい。

切手での納入はお断わりします

(ホ) 募集受付期間 平成27年1月24日(土)～30日(金)(当日消印有効)

(ヘ) 応募先(問い合わせ先)

〒422-8033 静岡市駿河区登呂3-1-1

蘇峰会静岡県書道展事務局 ☎054-284-9011(平日9:00～17:00)

(3) 審 査

審査は静岡県書道連盟に委嘱します

(4) 入賞発表

平成27年2月下旬 静岡新聞朝刊紙上で発表します

(ただし、優秀賞は後日、賞状の発送をもって発表に代えさせていただきます)

(5) 表彰式

平成27年3月22日(日) 静岡 新聞放送会館18階「蘇峰ホール」

(場所は静岡市駿河区登呂3-1-1 静岡新聞社)

※表彰式への出席は、会場の関係で奨励賞以上の方に限定します

(6) 賞

徳富蘇峰賞	6点
静岡県知事賞	1点
静岡市長賞	1点
静岡県教育委員会教育長賞	3点
静岡市教育長賞	3点
蘇峰会賞	5点
静岡新聞社・静岡放送社長賞	5点
駿府博物館長賞	5点
静岡県書道連盟会長賞	5点
静岡県書道連盟賞	7点
審査委員会賞	7点
奨励賞	7点
優秀賞	全作品の10%相当

※出品者全員に参加賞をさしあげます

(7)指定語句

園児	よいこ
小学1	ひかる
2	力づく
3	ひろい心
4	友と語る
5	高く登る
6	春の富士
中学1	志を立てる
2	輝ける富士
3	春水満四沢
高校	萬古清風
一般(大学生)	(1～3年共通・書体自由)
①平生心事人若門	笑指富士千古雪
②懸崖擁屋碧湾開	墻角黄橙籬外梅
風景依然人未老	仰新歳々幾回来
③春の苑紅にほふ桃の花	下照る道にいで立つをとめ
④よしの山霞のおくはしらねども	見ゆるかぎりは桜なりけり

●高校と一般の部の指定語句の「読み」と「意味」

高校「読み」 ばんこせいふう
一般

②「読み」

懸崖屋を擁して碧湾開く 墻角の黄橙籬外の梅
風景依然人未だ老いず 仰新歳々幾回か来る

「意味」

懸崖が建物を抱えるような形の目の前には
ふかみどりの湾が開けている。
垣根の角には色づいた橙、垣根の外には
梅の花。

風景は相変わらず昔のままで人(自分)も
老いていない。
こうしてもう何回新年を迎えたことだろう。

③「読み」

はるのそのくれないにおうものはな した
てるみちにいでたつおとめ

「意味」

春の庭園は桃の花が紅に咲いて明るい その下
に姿を見せたおとめたちよ

④「読み」

よしのやまかすみのおくはしらねども みゆる
かぎりはさくらなりけり

「意味」

吉野山の奥がどうなっているかは知らないけ
れど見渡すかぎりは桜の花盛りだ(きつと奥の
ほうもおなじように花盛りに違いない)